

93.8/14

十代に問う「慰安婦」

女性ライター 小6の言葉機に出版

「従軍慰安婦は、子供の問題でもあると思うの」。小学校六年のさえちゃんの言葉をきっかけに、東京・保谷市のルポライター西野留美子さん(四)が、一冊の本を書いた。「従軍慰安婦のはなし 十代のあなたへのメッセージ」だ。

西野さんとさえちゃん(二)の出会い、昨春秋、杉並区で開かれた平和を考える集会だった。「従軍慰安婦」について講演した西野さんに、家族と来ていたさえちゃんが「もっとくわしく話して」と語りかけた。

性の問題は避けて通れない。当惑する西野さんに、さえちゃんは言った。「大人は子供が性を考えないと思ってる。でも、私と同じ十代の子が慰安婦にされたのだから、これは私たちの問題でもあると思う」そして、同級生のさきち

ちゃん(三)と二人で出している学級新聞を見せてくれた。「子どもだから第二号」。テーマは「従軍慰安婦」。「目を閉じないで最後まで見てください」とあった。さえちゃんの母親が与えた戦争の本を、二人が読んで「許せない」と思ってた。発行した翌日、クラスの男子が、「非国民」と学級新聞を投げつけた。記事を見た母親が「非国民」とい

を子供に語れるか、とまどった自分が恥ずかしい。歴史の真実を手渡さなければならぬのは、子供なのだ。そして全国の子供たち

めた。西野さんが訪ねた元「慰安婦」の女性のこと、当時の日本の軍のこと。かみくだくに、半年かかった。

葉を使わないで伝えられな「いか」。迷ったが、結局言葉はそのまま使い、かつこで注を付けた。本を手にする親が子供に説明できるよ

婦を知ってほしい。全国学級新聞、という思いで作りました」と西野さん。本は、十五日に明石書店から発行される。

従軍慰安婦強制連行に思う 93.8/20

66 (静岡県駿東郡) 日本の国家的犯罪である従軍慰安婦の強制連行について、戦後四十八年たち政府はようやくその事実を認め、謝罪の意を示した。一九五〇年に創設されたばかりの警察予備隊(一)衛隊)に、女性の人権は、戦争に對し、軍隊を絶対否定する心を堅持する運動で守られる。

隊に話
る。兵
外と得意気
る。人
が国
自営業
と、あ